

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	水俣市立水俣第一小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	1	25	34
児童数	121	133	142	133	145	134	4	812	

研究の概要

1. 研究主題(及び主題設定の趣旨)

確かな学力を身につけさせるための指導方法・体制の工夫改善
～算数科等におけるきめ細かな指導の在り方を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3～6年生 算数
子どもの理解度に差が出やすい教科であり、昨年度も同じ学年で実施しており、研究の成果を経年比較するため。
2年生 算数
昨年度までの研究成果と理解度が出やすい教科の特性を考慮し、きめ細かな指導の実施学年の枠を広げる研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

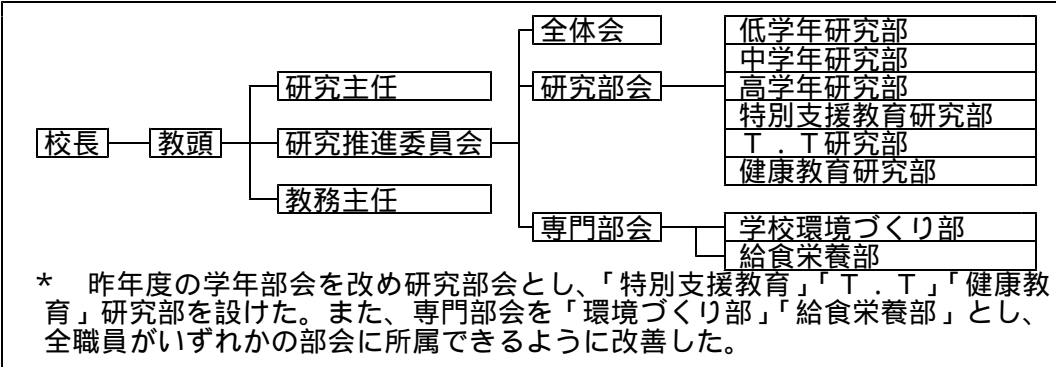
平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考える児童の育成 ～基礎・基本を定着させるための指導方法・体制の工夫を通して～ 仮説(研究の視点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な学習や生活習慣の実態に焦点をあてる。 2 授業の質を高めるための実践的研究を行う。 3 効果的な教育活動を推進するためのシステムや環境面に焦点をあてる。 <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な学習訓練や生活習慣についての現状把握と課題の分析を行い、実践項目を決定し、検証する。 2 授業の質を高めるための指導について、少人数指導という面と、毎時間の授業の質の向上という面から研究する。 3 子どもたちの学力や生活の実態にあった日課表の工夫改善を行う。 4 学校内の教育環境の再点検と整備・改善を行う。
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけさせるための指導方法・体制の工夫改善 ～算数科等におけるきめ細かな指導の在り方を通して～ 研究の見通し(視点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な学習の習熟の時間を設定し、全学年で取り組む。 2 授業の質を高めるための実践的研究を行う。 3 研究成果の発信を行う。 4 全職員による学校内外の教育環境の整備を図る。 5 心を育てる教育の充実と不登校傾向児童への積極的な支援を行う。 <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パワーアップタイム(学力充実の時間)の実践・評価・改善を行う。 2 算数科におけるきめ細かな指導法やTT、専科など個に応じた指導法を研究し、実践・評価・改善を行う。 3 全員の研究授業の公開とフロンティアスクールだよりによる研究内容の発信を積極的に行う。 4 全職員により、教室や廊下、校舎外の掲示物の工夫、備品の整理・活用を行い、教育環境の整備充実をめざす。 5 心と体の健康を育てる教育の充実と、不登校児童・不登校傾向児童に対する担任外の積極的な対応を図る。 <p>* 変更点 本年度研究の方向性についての協議から、学力充実のための体制づくりを優先すべきという結論に達し、昨年度中間報告にあった「1 学習訓練</p>
--------	---

と生活習慣」に関する研究と「3 習熟度別学習」に関する研究は、個人(学年)研究とし、次年度に活かすことにした。

平成 16 年度	<p>テーマ 確かな学力の育成のためのきめ細かな指導の工夫改善 ～学級2分割・少人数・習熟度・TTでの指導を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な学習訓練や生活習慣の実態に焦点をあてる。 2 授業の質を高めるための実践的研究を行う。 3 習熟度別指導の工夫・改善を行う。 4 研究成果の発信を行う。 5 心を育てる教育の充実と不登校傾向児童への積極的な支援を行う。 <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習のきまりや生活のきまり、家庭学習などについて、学年の系統を考慮した具体的取組を行う。 2 授業の質を高めるための指導方法の工夫改善を行う。 3 一人ひとりに応じた補足的な学習や発展的な学習の方法や習熟度別学習をシステム化し、具体的実践を行う。 4 学習の様子や研究授業などを保護者・地域に公開するとともに、フロンティアスクールだよりやHP等で発信する。 5 心と体の面から児童の実態を調査し、健康な児童を育てるための具体的実践と、不登校傾向児童に対する全職員の積極的な対応を図る。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善の観点から

1 算数科の学習について
算数科を中心に、1時間のめあての提示、目標に対応した評価の設定を共通理解とし、確かな学力を定着させるための授業改善への取組を進めてきた。研究授業を全学年算数で行い、1月教材の1単元分の指導案作成も行い、授業の質の向上を目指してきた。その研究成果を学習意欲と学期末テストの結果から述べる。

(1) 学習への興味・関心について
2年生では1学級を単純2分割を基本とし、3～6年生は2学級を3分割して取り組んできた。子どもたちの学習意欲と学力に関して調査し、昨年度と比較した結果を下表に示した。今年度は全ての学年において楽しいと答えた児童が80%を超えている。全ての学年で少人数指導の形を抵抗なく受け入れてきているといえる。中でも、2年生では「とても楽しい」と答えた児童が60%を超えていた。一昨年度から取り組んできた少人数指導のよさを子どもたちが実感として受け止めているといえる。

	平成14年度		平成15年度	
	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない
2年生	83.5%	16.5%	86.2%	13.8%
3年生	83.5%	16.5%	81.9%	18.1%
4年生	86.8%	13.2%	84.3%	15.7%
5年生	85.4%	14.6%	87.5%	12.5%
6年生	76.8%	23.2%	83.0%	17.0%

(2) 単元末のテストの結果より

	学級担任指導グループ		算数担当指導グループ	
	14年度	15年度	14年度	15年度
2年生	91.3点	91.3点	92.3点	92.3点
3年生	87.6点	82.8点	97.5点	90.8点
4年生	82.1点	78.1点	91.1点	89.7点
5年生	83.6点	82.4点	92.9点	91.5点
6年生	81.3点	83.6点	98.0点	92.9点

各学年の1学級を抽出し、1学期のまとめのテストの平均を計算し、昨年度と今年度を比較した結果を左表に表した。2年生では単純に2分割した少人数

指導、3～6年生では児童の意見を加味した習熟度別学習で、2学級を3分割して授業を行ってきた。2年生においては单元ごとに指導グループを入れ替えていたので単純に他の学年と比較はできないが、ともに90点以上の得点をとることができた。昨年度は全ての学年で80点以上の平均をとっていた。今年度は80点を下回る学年もあったが、全体的には担任指導では平均80点以上に、算数担当指導では、平均90点以上となっており、きめ細かな指導の成果が昨年に引き続き現れているといえる。

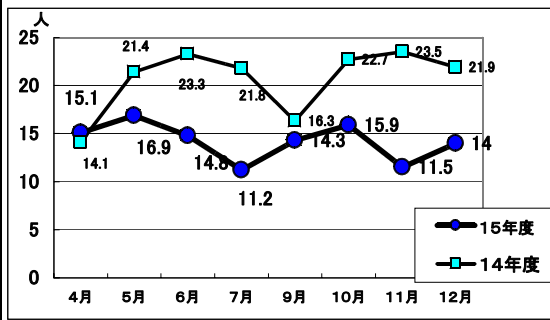
2 指導体制の工夫について

(1) 朝のパワーアップタイムの実施

今年度から朝自習の時間をなくし、基本的な計算や漢字、音読、視写等の習熟のための学力充実の時間を設定した。昨年度まで朝自習の時間に行っていた職員朝会は、放課後に夕会として実施することにした。この取組により、担任が朝から児童とじっくり向き合うことができるようになり、落ち着いて一日のスタートが切れるようになった。

(2) 欠席児童、不登校傾向児童への支援体制の整備

朝のパワーアップの時間に欠席の様子を把握し、2校時後の休み時間までには学級担任と校長・教頭、養護教諭等で対応策を相談できる体制を作った。その結果、左表のように欠席者数が減少してきた。また、長欠児童や不登校児童の減少もある。これらは、授業改善とともに、欠席児童対応のシステムの整備の結果だととらえている。



1日における欠席者数の平均は、4月から12月まで15人前後で安定している。昨年度は20人を越える月が多かったことを考えると、本年度は欠席者がかなり少なくなっていることが分かる。また、昨年度は、1ヶ月の中で連続7日又は不連続10日以上欠席した児童が平均で5.6人いるという結果であった。しかし、今年度は平均して1.5人、2学期だけをでは平均0.75人と減少した。

2. 今後の課題

- 1 系統性を考慮した学習や生活のきまりを確認し、確かな学力の定着という視点から家庭との連携を深める。
- 2 能動と徹底を意識しためりはりのある授業展開するための研究会を実施する。また、指導と評価の一体化等の授業の質に関わるテーマで研究を深める。
- 3 発展学習、補充学習に関する教材開発や習熟度別学習の在り方を検討する。
- 4 フロンティアスクールとして、地域への発信を積極的に行う。
- 5 人権教育の指導計画を再検討し、人権に関する取り組みの充実を図る。また、「良いところ見つけたよ」「うれしかったよ」「せんせいあのね」など、学年にあった具体的な取り組みを行い、子どもの目に触れるような掲示を行うなど、環境面での工夫も行う。
- 6 欠席した児童に対する補充学習の進め方を学校としての課題としてとらえ、体制の充実を図っていく。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 算数科に対する意識調査(7月、2月実施)・・・好き嫌いとその理由について実態を把握するために行う。
- 2 学期末のテストの分析(7月、12月、3月実施)・・・児童の学習の到達の様子を把握するために行う。
- 2 ゆうチャレンジ(12月)・・・一人ひとりの観点別の到達状況を把握するために行う。
- 3 学力検査(1月)・・・一年間の学力の定着状況を把握するために行う。
- 4 欠席状況の把握(毎月)・・・児童の欠席の様子を把握し、不登校傾向児童や気になる児童への具体的な支援を行うために行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 フロンティアスクール研究発表会(予定)
平成17年1月28日 会場 水俣第一小学校
- 2 フロンティアスクールだよりの発行(月1回程度、平成15年度より実施)
- 3 学校HPへの取組(算数教室を取り上げた。学年の取組も掲載する予定)
- 4 芦北町教務主任会においてフロンティアスクールとしての取組を発表した。
- 5 職員夕会を実施する学校が管内の小中学校であった。研究授業の積極的な公開も管内の小中学校で前向きに検討されている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無